

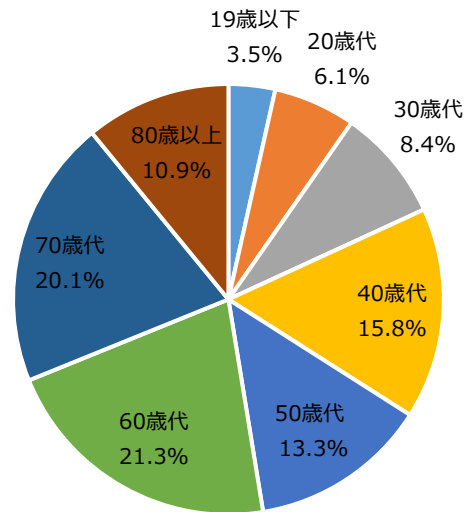
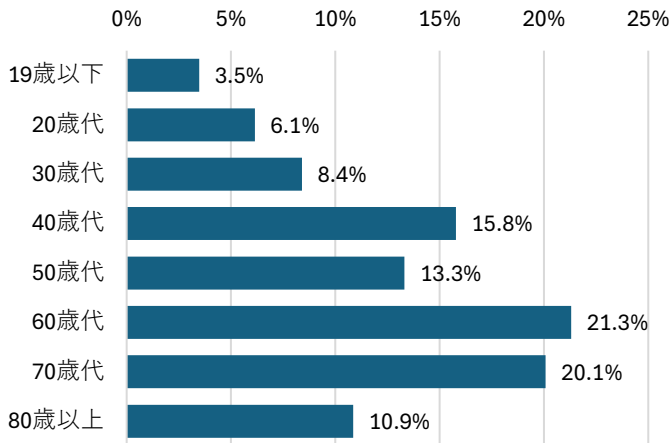
※ グラフは、無回答を除いたものを表示しています

「食品ロスに関するアンケート」集計結果

問1. 回答者の属性

年齢

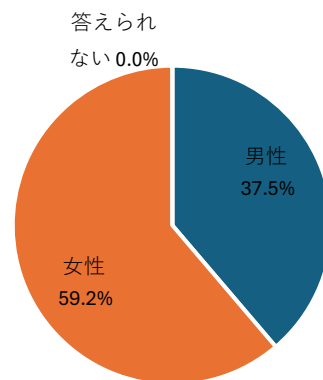
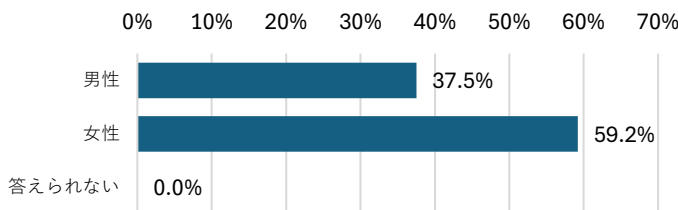
		回答数	
全体(N)		488	%
1	19歳以下	17	3.5%
2	20歳代	30	6.1%
3	30歳代	41	8.4%
4	40歳代	77	15.8%
5	50歳代	65	13.3%
6	60歳代	104	21.3%
7	70歳代	98	20.1%
8	80歳以上	53	10.9%
	無回答	3	0.6%



回答者は60歳代（21.3%）と70歳代（20.1%）が最も多く、次いで40歳代（15.8%）、50歳代（13.3%）、80歳以上（10.9%）の順です。市内人口に占める年齢層の割合（人口比）は、全体から14歳以下を除いた人口比で、15歳以上19歳以下5.7%・20歳代12.2%・30歳代12.4%・40歳代15.3%・50歳代16.0%・60歳代13.4%・70歳代14.6%・80歳以上10.4%であり、アンケートの発出数もこの人口比に沿っています。60歳代・70歳代の関心度（回答率）が相対的に高い結果となっています。

性別

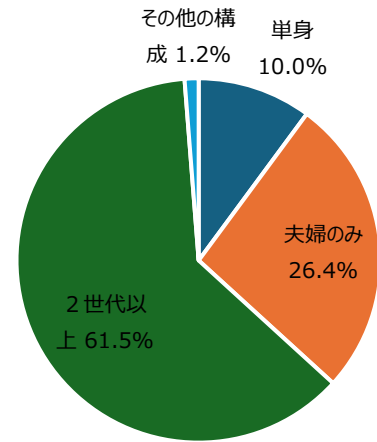
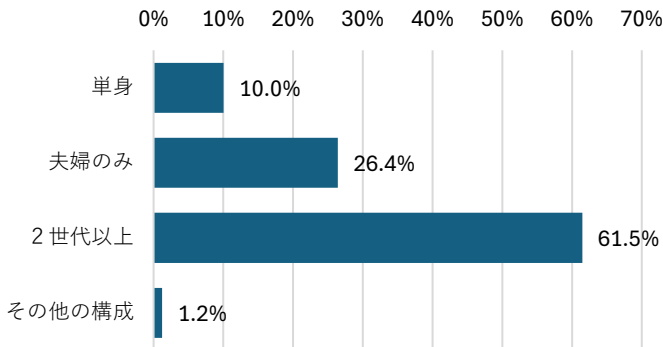
		回答数	
全体(N)		488	%
1	男性	183	37.5%
2	女性	289	59.2%
3	答えられない	0	0.0%
	無回答	16	3.3%



回答者は、女性が約59%、男性が約38%です。男女の発出数（人口比）がほぼ同数ですので、女性の関心度（回答率）が高い結果となっています。

家族・世帯構成

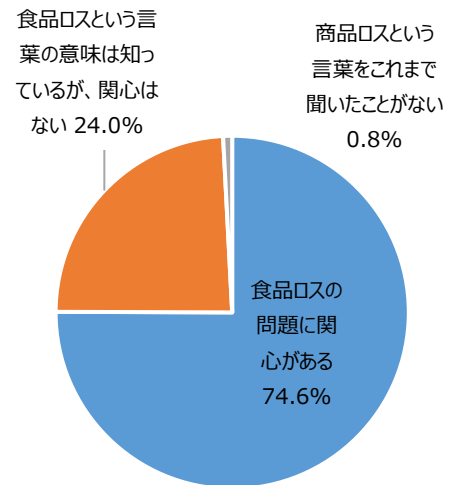
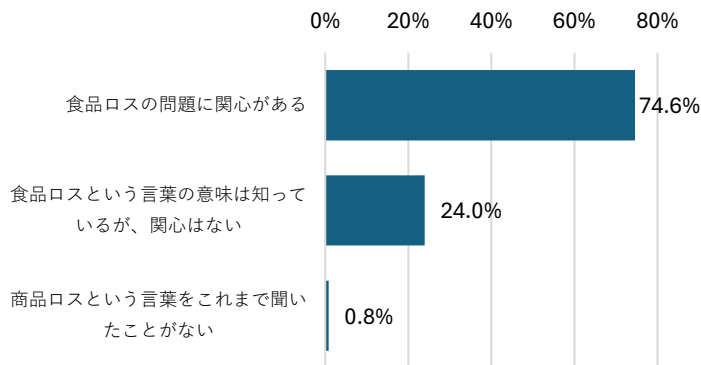
		回答数	
全体(N)		488	%
1	単身	49	10.0%
2	夫婦のみ	129	26.4%
3	2世代以上	300	61.5%
4	その他の構成	6	1.2%
	無回答	4	0.8%



回答者は、2世代以上（61.5%）が最も多く、次いで夫婦のみ（26.4%）、単身（10.0%）の順です。

問2-1.「食品ロス」の関心について

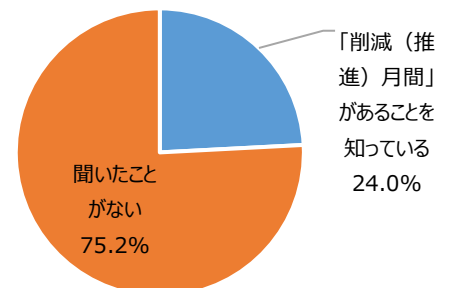
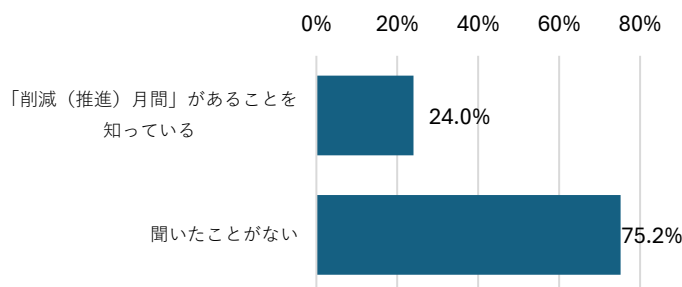
		回答数	
全体(N)		488	%
1	食品ロスの問題に関心がある	364	74.6%
2	食品ロスという言葉の意味は知っているが、関心はない	117	24.0%
3	商品ロスという言葉をこれまで聞いたことがない	4	0.8%
	無回答	3	0.6%



回答数は、「食品ロスの問題に関心がある」が75%です。「意味は知っているが関心はない」という回答と併せ、食品ロスの認知度の高さがうかがえます。

問2-2.毎年10月に全国で展開される啓発活動「食品ロス削減月間」の認知度

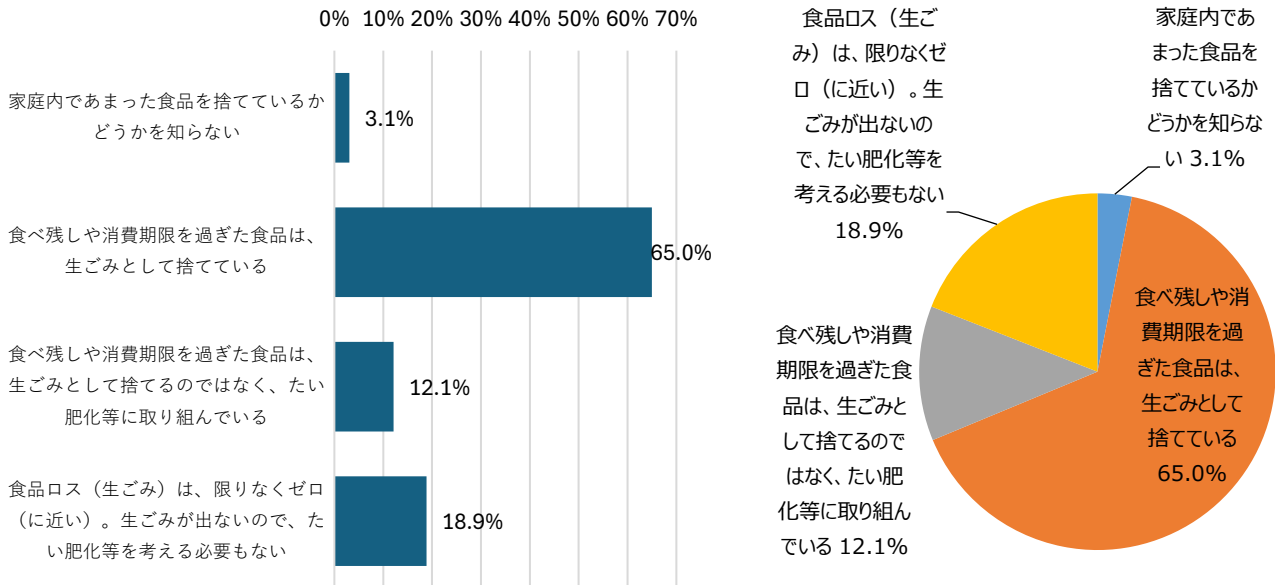
		回答数	
全体(N)		484	%
1	「削減（推進）月間」があることを知っている	117	24.0%
2	聞いたことがない	367	75.2%
	無回答	4	0.0%



回答数は、「推進月間を聞いたことがない」が75%です。活動の周知が課題です。

問3.家であまった食品、食材の処分方法について

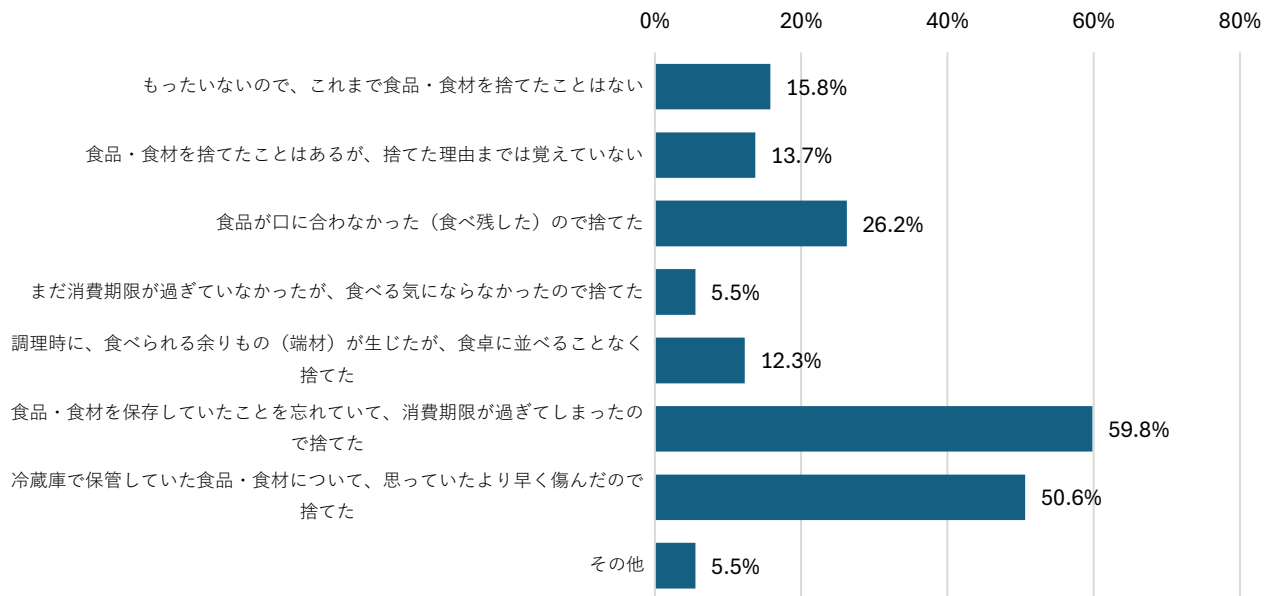
全体(N)		回答数	%
1	家庭内であまった食品を捨てているかどうかを知らない	15	3.1%
2	食べ残しや消費期限を過ぎた食品は、生ごみとして捨てている	317	65.0%
3	食べ残しや消費期限を過ぎた食品は、生ごみとして捨てるのではなく、たい肥化等に取り組んでいる	59	12.1%
4	食品ロス（生ごみ）は、限りなくゼロ（に近い）。生ごみが出ないので、たい肥化等を考える必要もない	92	18.9%
	無回答	5	1.0%



回答数は、「生ごみとして捨てる」が65%です。家庭内での食品ロスが燃えるごみとして処理されることが多い実態がうかがえます。

問4.「食べ残し」ではない食品、食材等を捨てたことの有無・捨てた理由（複数回答）

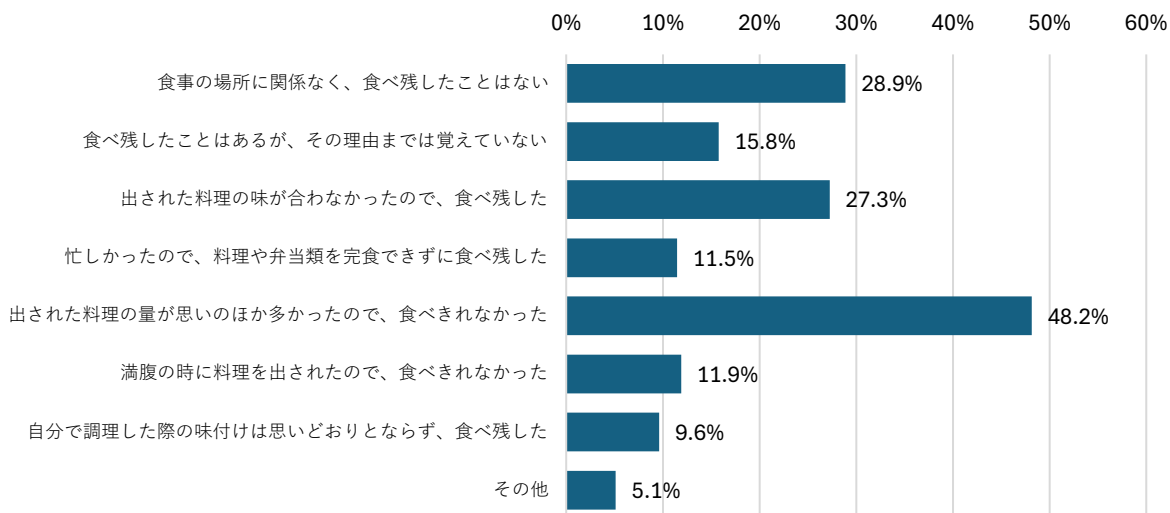
全体(N)		回答数	%
1	もったいないので、これまで食品・食材を捨てたことはない	77	15.8%
2	食品・食材を捨てたことはあるが、捨てた理由までは覚えていない	67	13.7%
3	食品が口に合わなかった（食べ残した）ので捨てた	128	26.2%
4	まだ消費期限が過ぎていなかったが、食べる気にならなかったため捨てた	27	5.5%
5	調理時に、食べられる余りもの（端材）が生じたが、食卓に並べることなく捨てた	60	12.3%
6	食品・食材を保存していたことを忘れていて、消費期限が過ぎてしまったので捨てた	292	59.8%
7	冷蔵庫で保管していた食品・食材について、思っていたより早く傷んだので捨てた	247	50.6%
8	その他	27	5.5%



複数回答の上位は、「保存していたことを忘れ期限が切れた」60%、「思ったよりも早く傷んだ」51%です。保管方法に課題があることがうかがえます。

問5. 料理・弁当類を「食べ残した」ことの有無・食べ残しの理由（複数回答）

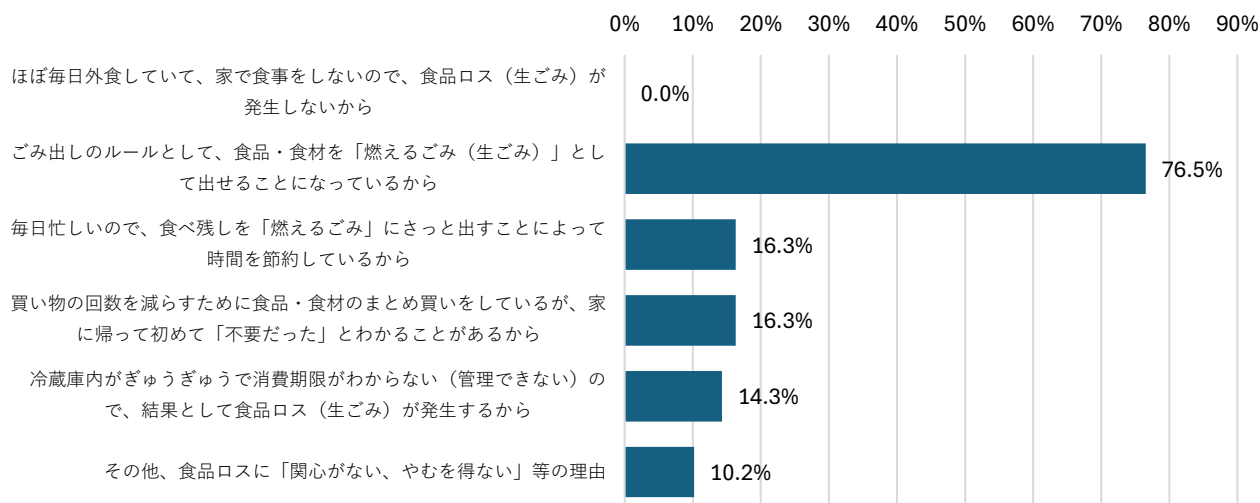
全体(N)		回答数	%
1	食事の場所に関係なく、食べ残したことはない	141	28.9%
2	食べ残したことはあるが、その理由までは覚えていない	77	15.8%
3	出された料理の味が合わなかったので、食べ残した	133	27.3%
4	忙しかったので、料理や弁当類を完食できずに食べ残した	56	11.5%
5	出された料理の量が思いのほか多かったので、食べきれなかった	235	48.2%
6	満腹の時に料理を出されたので、食べきれなかった	58	11.9%
7	自分で調理した際の味付けは思いどおりとならず、食べ残した	47	9.6%
8	その他	25	5.1%



複数回答の上位は、「量が多かった」48%、「食べ残したことはない」29%、「味が合わなかった」27%の順です。食べ残しの理由は様々ですが、70%以上の人に「食べ残し」経験の可能性があります。

問6. 食品ロスに「あまり関心がない」又は「食品ロスを生ごみ（燃えるごみ）とするのは問題ないと考える」理由（複数回答）

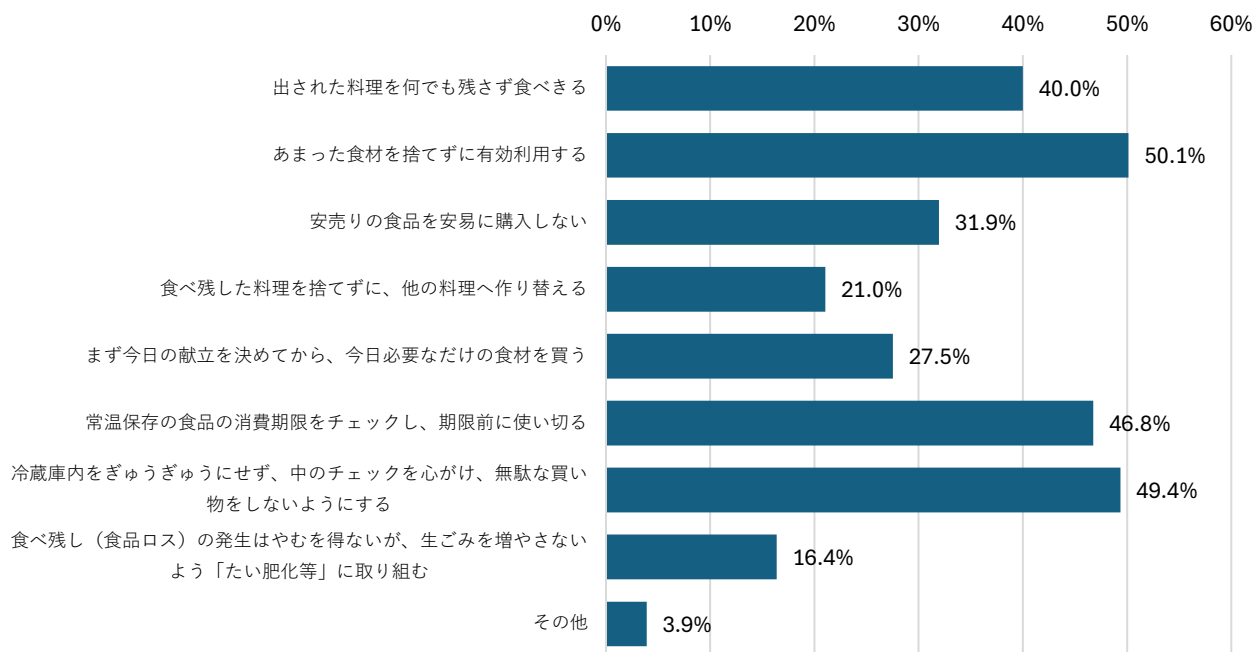
全体(N)		回答数	%
1	ほぼ毎日外食していて、家で食事をしないので、食品ロス（生ごみ）が発生しないから	0	0.0%
2	ごみ出しのルールとして、食品・食材を「燃えるごみ（生ごみ）」として出せることになっているから	75	76.5%
3	毎日忙しいので、食べ残しを「燃えるごみ」にさっと出すことによって時間を節約しているから	16	16.3%
4	買い物の回数を減らすために食品・食材のまとめ買いをしているが、家に帰って初めて「不要だった」とわかることがあるから	16	16.3%
5	冷蔵庫内がぎゅうぎゅうで消費期限がわからない（管理できない）ので、結果として食品ロス（生ごみ）が発生するから	14	14.3%
6	その他、食品ロスに「関心がない、やむを得ない」等の理由	10	10.2%



まず、食品ロスに「関心がない」か、「燃えるごみとして出すのは問題ない」とする人の割合が全体の約20%であることがわかります。その内の77%（全体の15%）が「燃えるごみとして出せるルール」を「問題なし」の根拠としています。

問7. 食品ロスの削減に関心がある人限定 食品ロスを減らすために重要と思うもの（上位3つ）

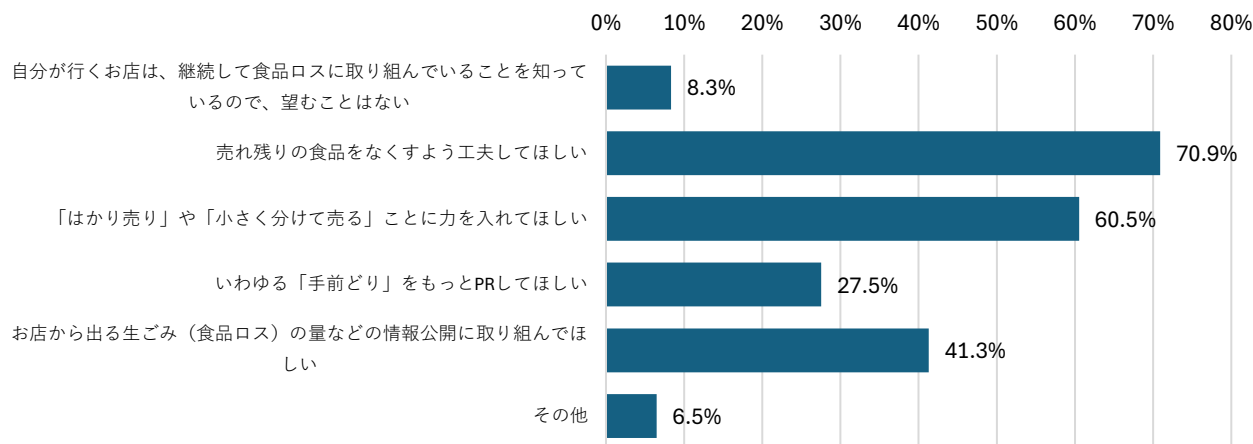
全体(N)		回答数	%
1	出された料理を何でも残さず食べきる	154	40.0%
2	あまった食材を捨てずに有効利用する	193	50.1%
3	安売りの食品を安易に購入しない	123	31.9%
4	食べ残した料理を捨てずに、他の料理へ作り替える	81	21.0%
5	まず今日の献立を決めてから、今日必要なだけの食材を買う	106	27.5%
6	常温保存の食品の消費期限をチェックし、期限前に使い切る	180	46.8%
7	冷蔵庫内をぎゅうぎゅうにせず、中のチェックを心がけ、無駄な買い物をしないようにする	190	49.4%
8	食べ残し（食品ロス）の発生はやむを得ないが、生ごみを増やさないよう「たい肥化等」に取り組む	63	16.4%
9	その他	15	3.9%



まず、食品ロスの削減に関心がある人の割合が全体の約80%であることがわかります。生ごみとして処分すると回答した割合65%とのミスマッチについて、検討が必要です。関心ごととして、「消費期限」の把握を挙げた人の割合が高いことがわかります。

問8. 食品ロスの削減に関心がある人限定 食品を扱うお店に対して望むこと（上位3つ）

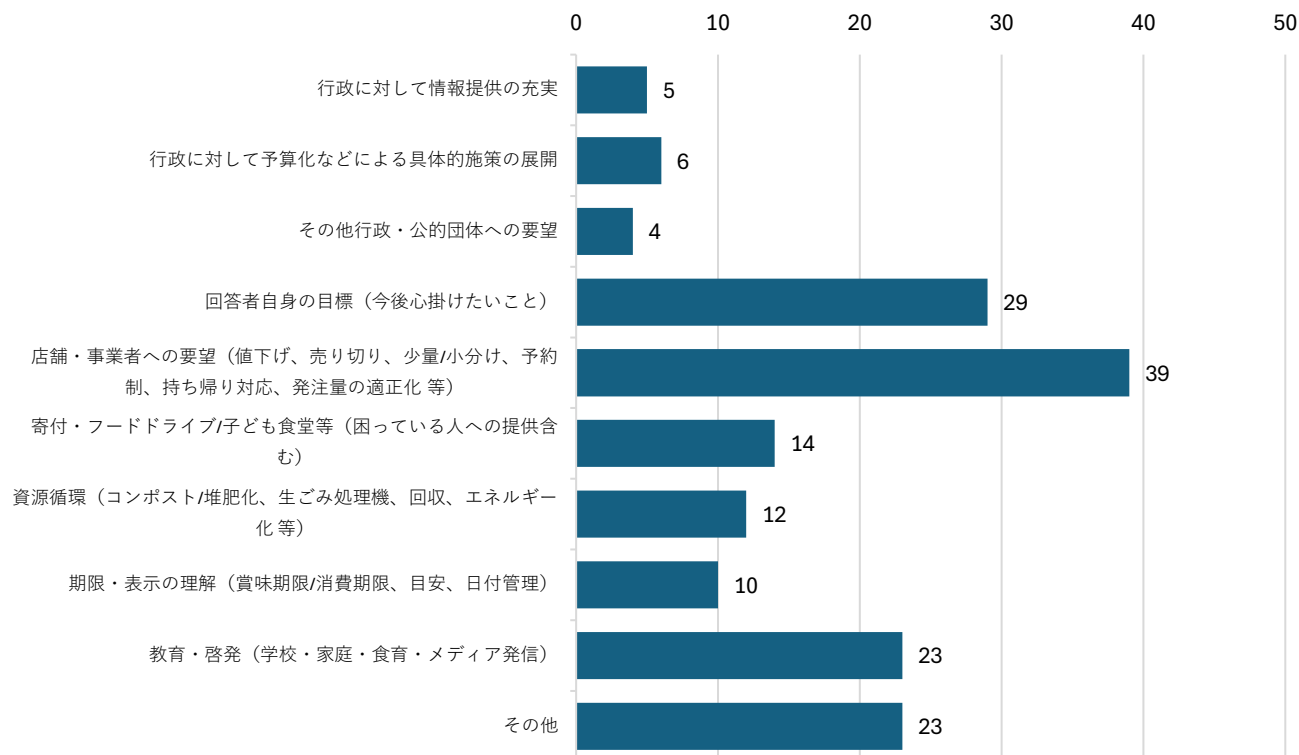
全体(N)		回答数	%
1	自分が行くお店は、継続して食品ロスに取り組んでいることを知っているの、望むことはない	32	8.3%
2	売れ残りの食品をなくすよう工夫してほしい	273	70.9%
3	「はかり売り」や「小さく分けて売る」ことに力を入れてほしい	233	60.5%
4	いわゆる「手前どり」をもっとPRしてほしい	106	27.5%
5	お店から出る生ごみ（食品ロス）の量などの情報公開に取り組んでほしい	159	41.3%
6	その他	25	6.5%



店舗に望む内容として「売れ残りを出さない」「小分けにして売る」「食品ロスに関する情報公開」を望む声が強いです。

問9. 食品ロスの削減に関心がある人限定 食品ロスを減らすために必要なこと、提言

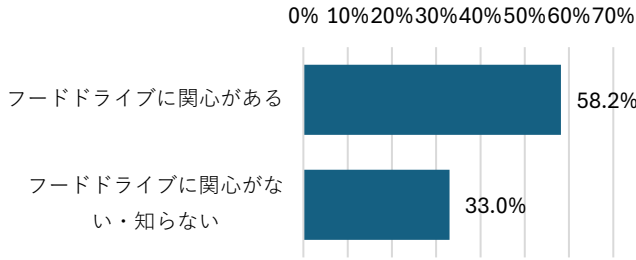
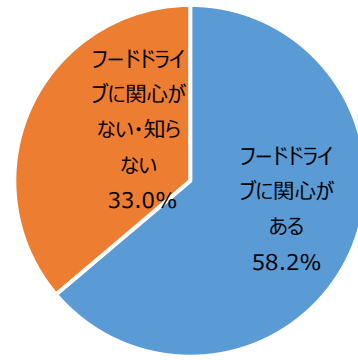
	回答数
1 行政に対して情報提供の充実	5
2 行政に対して予算化などによる具体的施策の展開	6
3 その他行政・公的団体への要望	4
4 回答者自身の目標（今後心掛けたいこと）	29
5 店舗・事業者への要望（値下げ、売り切り、少量/小分け、予約制、持ち帰り対応、発注量の適正化等）	39
6 寄付・フードドライブ/子ども食堂等（困っている人への提供含む）	14
7 資源循環（コンポスト/堆肥化、生ごみ処理機、回収、エネルギー化等）	12
8 期限・表示の理解（賞味期限/消費期限、目安、日付管理）	10
9 教育・啓発（学校・家庭・食育・メディア発信）	23
10 その他	23



本欄は自由記述です。165人（食品ロスの削減に関心のある人の43%）から回答があり、回答内容をカテゴリー化しています。事業者（特に小売店）に対する要望や、回答者自身が自分に課す目標内容、教育の充実に関する記述が多いことがわかります。

問10. 食品ロスの削減に関心がある人限定 フードドライブへの関心

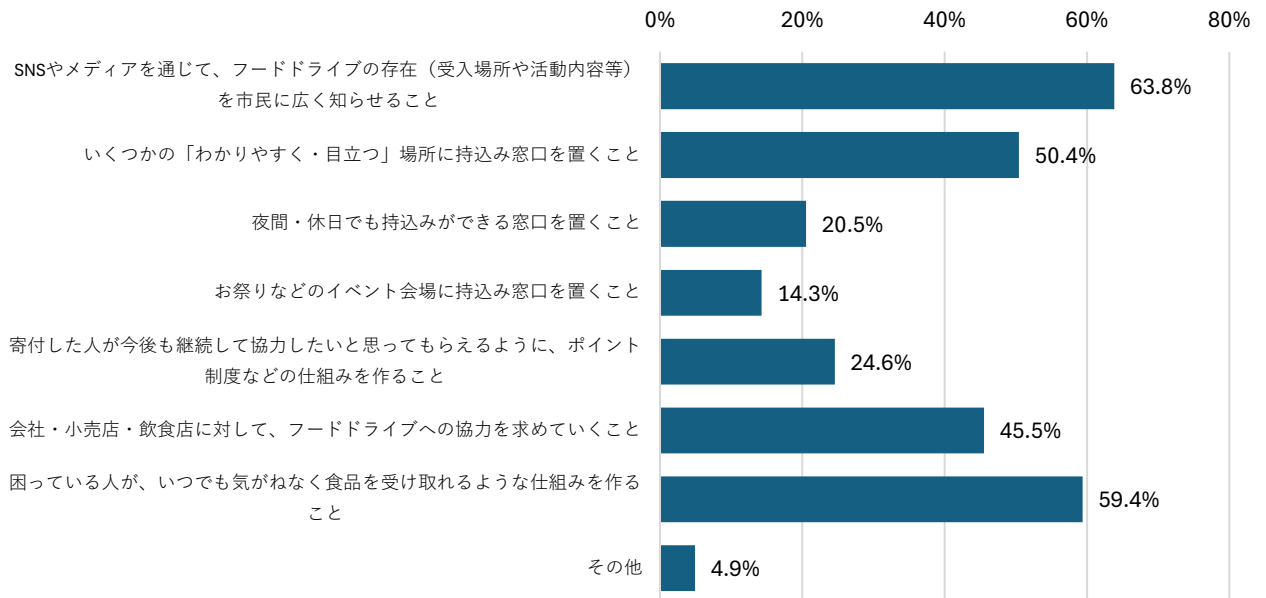
	回答数	%
全体(N)	385	100.0%
1 フードドライブに関心がある	224	58.2%
2 フードドライブに関心がない・知らない	127	33.0%
無回答	34	8.8%



「食品ロスに関心があり、フードドライブにも関心がある」とした人が全回答者（488人）の46%ありますが、一方で食品ロスに関心はあってもフードドライブに関心がない・知らない人が33%あります。全体的な数字の底上げが課題と言えます。

問11. フードドライブに関心がある人が、フードドライブの普及に重要と考えるもの（上位3つ）

	回答数	%
全体(N)	224	
1 SNSやメディアを通じて、フードドライブの存在（受入場所や活動内容等）を市民に広く知らせること	143	63.8%
2 いくつかの「わかりやすく・目立つ」場所に持込み窓口を置くこと	113	50.4%
3 夜間・休日でも持込みができる窓口を置くこと	46	20.5%
4 お祭りなどのイベント会場に持込み窓口を置くこと	32	14.3%
5 寄付した人が今後も継続して協力したいと思ってもらえるように、ポイント制度などの仕組みを作ること	55	24.6%
6 会社・小売店・飲食店に対して、フードドライブへの協力を求めていくこと	102	45.5%
7 困っている人が、いつでも気がねなく食品を受け取れるような仕組みを作ること	133	59.4%
8 その他	11	4.9%



フードドライブに関心のある人々が望むことは、「広報活動」「困窮者が受け取れる仕組み作り」「持込み窓口の充実」「法人に対してフードドライブへの協力を求めること」が多いことがわかります。